2023年（令和5年）
7月号
赤目まちづくり委員会・市民センター

赤目まちづくり通信

発行／赤目まちづくり委員会（赤目市民センター）　〒518-0465名張市赤目町丈六238-1　E-mail：akame-ko@emachi-nabari.jp　TEL＆FAX：(0595) 63－0329

地域コミュニティ活動の拠点として

赤目市民センター　センター長　藤永和生

この度、赤目市民センター長を拝命しました藤永和生です。よろしくお願い申し上げます。平素は赤目市民センターの活動や運営にご支援とご協力を賜りお礼申し上げます。

赤目市民センターは、「よりよい、赤目まちづくりを行う地域づくり活動」、「スポーツ活動・文化活動を通して、健康増進や、人との出会いによる楽しみを得ることなどを目的とした生涯学習活動」、「誰もが安心して暮らせるよう、地域の福祉課題の解決に向けて取り組む地域福祉活動」等の、地域コミュニティ活動の拠点としての機能の充実を図ることに努めてまいります。

今後も、皆様のご支援とご協力を賜りますようお願い申し上ます。以下は、赤目市民センターの年間行事予定です。

月	日	行　事	内　容	場　所
7	22(土)	市民大学講座①	歴史講座・松鹿昭二先生	大会議室
8	11(金・祝)	夏休み子供映画会①	「弱虫ペダル」実写版	〃
	14(月)	星空観察会	夏空流星群の観察	駐車場
	23(水)	夏休み子供映画会②	「ワンピース」アニメ	大会議室
10	14(水)	赤目歴史散策	名張旧町散策	名張市内
	21(土)	親子料理教室	お菓子づくり	調理室
	28(土)～30(月)	赤目市民センターまつり	サークル発表会・展示・出店、他	市民センター
	29(日)	市民大学講座②	「赤目の今と昔」Part.2 山口浩司市図書館館長	大会議室
11	14(火)	館外学習	家康の故郷岡崎を訪ねて	愛知県
	18(水)	通報避難訓練	市民センター自主防災訓練	センター内
1	21(日)	人権学習会	人権を学ぶ	大会議室
2	1(木)	高齢者交通安全教室	交通規則とマナーを学ぶ	〃
	18(日)	工作教室	組み紐づくり	工芸室

丈六出前健康教室実施

健康福祉部（大森一彦部長）主催の「丈六出前健康教室」を２０日１３時半より丈六集会所で開催。

今回は、赤目まちの保健室よりフレイル（筋肉虚弱）チェックと脳トレ体操を実施。４年ぶりの開催で、多くの方の参加を頂きありがとうございました。今後、各区で開催予定です。

錦生赤目小３生センター訪問

錦生赤目小学校の３年生２７名のお友だちが、２７日（火）午前中市民センターを見学に来てくれました。藤永センター長より、センターの仕事や施設の役割を説明。元気の良い子供たちが、館内を見学。多目的ホール卓球場・まちの保健室・あんしんねっとで、説明を聞きました。また子供たちのａｄｓのインタビューにも元気よく答えてくれました。

各サークルのご紹介②

今回は、文化活動をされているサークルさんのご紹介をさせて頂きます。詩吟、囲碁将棋、句会、茶道、民謡のグループ５組。（写真は 2022 年度分です。）

①赤目詩吟クラブ　　第１・３木曜日 19:00 ～ 21:00 開催
②赤目囲碁・将棋クラブ　第２・４日曜日 13:00 ～ 16:00 開催
③赤目句会　第３木曜日 13:00 ～ 16:00 開催
④赤目茶道高年者グループ　第４月曜日 13:00 ～ 16:00 開催
⑤民謡クラブ　　第２・４木曜日 14:00 ～ 16:00 開催
開催日に連絡の上、見学ください。　☎63-0329 市民センター

赤目詩吟クラブ

赤目囲碁・将棋クラブ

赤目句会

赤目茶道高年者グループ

赤目民謡クラブ

詳細は、工芸室に掲示していますので、ご参照ください。

柏原チマキづくり開催

６月１８日（日）９時より柏原集会所・勝手神社境内で、柏原ふれ愛サロンひまわり・みのり会の主催で「粽（ちまき）」作りを開催しました。

ちまきを食べるのは一般的には端午の節句の５月。１５８１年の「天正伊賀の乱」で柏原城が織田信長に攻められ、ちまきの色が変わるほど激しい戦いで忌み嫌われ作らない家庭が増えた。その後、地域のみんなで復興し旧暦の５月の節句（新暦6月）にちまきを作るようになった。

当日は、北川裕之市長・中森博文県議会議長・西山嘉一教育委員会教育長など、６０名余りの参加を頂き大変賑やかな催しになりました。お土産に、チマキを各家庭・参加者に頂きました。

たくさんの方にご参加を頂き、ありがとうございました。

みんなのゆめ広場草刈り

６月２４日（土）朝８時より、地域振興部（水谷孝昭部長）主催で「みんなのゆめ広場」の草刈りを実施。

各部より多くのボランティアさん３２名が、参加して頂いて広い広場がきれいになりました。特に法面・傾斜面の草降ろし・集めに悪戦苦闘。多くの方の協力で９時半には、完了。

参加いただいた皆さん、ありがとうございました。また、その後地域振興部有志の方で、錦生赤目小学校校庭の草刈りをして頂き、小学校よりお礼の言葉を頂きました。

皆様の情報をお寄せください。

いただいた情報は、取材を進めて、記事や Web サイトなどで紹介させて頂きます。（内容は、リライト・一部加筆訂正致します。）

赤目まちづくり委員会
赤目市民センター
ホームページ

赤目まちづくり委員会・市民センターの情報及びまちづくり通信がホームページでカラーでご覧いただけます。
※スマホ・携帯電話で左の QR コードを読み取って下さい。

ご参加をお待ちしています。

市民大学講座　参加者募集

赤目市民センター主催講座

＜本能寺の変以後を考察＞

第三次天正伊賀の乱

本能寺の変以後、織田信長自害で、天正伊賀の乱決戦の地・柏原城(瀧野城)の争奪戦をめぐっての解説。

440年前の歴史ロマンに触れてみたいと思います。

日　　時　　７月22日(土)９時30分～

集合場所　　赤目市民センター　大会議室

講　　師　　伊賀中世城館調査会会長

松鹿昭二氏

(名張ケンコー！マイレージポイント対象)

申し込み　　７月14日(金)までに、市民センター(電話63-0329)にお申し込み下さい。

（定員２５名で締め切ります。）

7月・8月は、赤目まちづくり委員会・赤目市民センターで、夏休みの小・中学生を対象にした数々の催しを開催しています。皆様の参加をお待ちしています、奮ってご参加ください。連絡63-0329まで。

7月10日～8月6日までの予定

月	火	水	木	金	土	日
7/10	11	12 ふれあいサロン	13 岐阜県みよし市来訪	14	15	16
17	18	19	20	21	22 市民大学講座	23
24	25	26 忍たま広場 ふれあいサロン	27	28	29	30
31	8/1	2	3	4	5 赤目夏まつり	6

＜お知らせ＞

※7月26日（水）10時からのふれあいサロンで、「さくらどろっぷ」さんのコーラス・楽器生演奏を開催。たくさんのご参加をお待ちしています。

８月の行事予定

★8/9(水)ふれあいサロン

★8/11(金)夏休みこども映写会①　13：30～

★8/14(月)星空観察会

★8/16(水)ELP健康教室

★8/17(木)サンサンカレー

★8/21(月)夏休み「茶道体験」

★8/23(水)忍たま広場・ふれあいサロン

★8/23(水)夏休みこども映写会②　13：30～

赤目夏まつりへの取組み紹介　　赤目夏まつり実行委員会から

◎小・中学校生により４店舗のブースをオープンします。
錦生赤目小学校児童（２ブース）・・ヨーヨーつり・フルーツあめ
赤目中学校生徒（２ブース）・・・・射的・かき氷

◎地域の皆様の「盆踊り」及び「子供と一緒に盆踊り」を計画しています。下記のとおり練習会を開催。ご自由に、ご参加ください。

①子供たちの練習日…７月２６日（水曜日）午後２時～　赤目市民センター大会議室

②一般の練習日…７月３０日（日曜日）午後２時～　赤目市民センター大会議室

Vol.42　新・歴史散策紀行…「伊賀・赤目文化遺産」

俳句の大成者「芭蕉さん」

赤目のむかし話は、少しお休みを頂いて、名張・伊賀にゆかりある人や史実の歴史散策を。そこで伊賀と云えば、やはりこの人、松尾芭蕉（まつお ばしょう）。

芭蕉さん（１６４４年（ 寛永２１年）～ １６９４年１１月２８日（ 元禄７年１０月１２日））は、江戸時代前期の俳諧師。幼名は金作。名は宗房（むねふさ）。俳号は初め実名宗房（そうぼう）を、次いで桃青（ とうせい ）、芭蕉（はせを）と改めた。１３歳で父親を亡くし、藤堂家に出仕し侍大将・藤堂良忠と共に、京都の俳諧師・北村季吟の門下となる。地元では、親しみを込めて「芭蕉さん」と呼ぶ。

和歌の余興の言捨ての滑稽やユーモアを主とした俳諧を、蕉風と呼ばれる芸術性の高い句風として確立。後世では俳聖として世界的にも知られる日本史上最高の俳諧師に。但し芭蕉自身は発句（俳句）より俳諧（連句）を好んだ。

１６８９年５月１６日（ 元禄２年３月２７日）に弟子の河合曾良を伴い江戸を発ち、東北から北陸を経て美濃国大垣までを巡った紀行文『おくのほそ道』が特に有名。伊賀者（忍者）として藤堂家に仕えた無足人（準士分）であるとする説や、母が伊賀忍者の百地氏の血筋である説で、『おくのほそ道』は江戸幕府の命を受け隠密として東北諸藩の様子を調査する裏の目的が隠されていたとの解釈もある。

芭蕉さんは、伊賀国阿拝郡柘植郷の土豪一族出身の松尾与左衛門と妻・梅の次男として誕生。出生地も、阿拝郡の上野城下赤坂町（現在の伊賀市上野赤坂町）説と上柘植村（現在の伊賀市柘植町）説の２説がある。出生前後に上柘植村から赤坂町へ移転し、転居と芭蕉誕生のどちらが先だったかが不明。松尾家は農業を生業としていたが、苗字を持つ家柄だった。

上野天神宮（ 菅原神社 ）は、芭蕉が、伊賀藤堂家に仕官していた武士の身分を捨て、俳諧で身を立てることを決意した１６７２年（ 寛文１２年）に、自分の文運を祈願して「貝おほい（貝おほひ）」という作品集を奉納した神社としても有名。

１６７５年（ 延宝３年）に江戸に下り、神田上水の工事に携わった後は１６７８年（ 延宝６年）に宗匠となり、職業的な俳諧師となった。１６８０年（ 延宝８年）に深川に草庵を結び門人の李下から贈られた、芭蕉の木を一株植え、大いに茂ったので「芭蕉庵」と名付け、「芭蕉」の句を詠んだ。

伊賀上野には「芭蕉五庵」（無名庵・蓑虫庵・東麓庵・西麓庵・瓢竹庵）と呼ばれるゆかりの草庵がある。その中で唯一現存するのが蓑虫庵（ みのむしあん ）。庭内には、芭蕉堂や代表句「古池や　蛙飛こむ　水の音」をはじめとする句碑が並んでいる。和歌や連歌の世界では蛙の「鳴く」ところに注意が及ぶが、蛙の「飛ぶ」点に着目し、それを「動き」ではなく「静寂」を引き立てるために用いる詩情性は過去にない画期的な作品と称賛される。

平安後期の流浪の歌人西行（１１１８～１１９０年）に憧れ、『おくのほそ道』『更科紀行』『野ざらし紀行』『笈の小文』『鹿島詣』などの紀行文（旅日記）を残した。生涯で詠んだ発句は１０００句以上。痔と疝痛の持病があったようで、下痢が原因の大腸炎で死去（５０歳）。辞世の句、「旅に病んで　夢は枯野を　かけ廻る」。芭蕉さんは、まさに伊賀出身の世界に誇れる偉人です。

芭蕉像

上野市駅芭蕉像

伊賀支所前

芭蕉と曾良

上野天神宮（菅原神社）

生誕300年記念の俳聖殿

蓑虫庵外観

蓑虫庵中庭